



鈴木健次さん(80歳)
 良子さん(80歳)
 (中畑在住)

昭和20年12月ご結婚



町内の写真館で撮った家族との写真。
 暑い夏の日の夕方、町内を家族で散歩していた時に立ち寄って撮ったもの。

結婚60年を迎えて・・・。
 「あつという間だったね」と夫の健次さん。「75歳のとき脳梗塞で倒れたけど、それまでは医者いらずで丈夫に過してこれだから・・・有難いね。」と妻の良子さん。
 同じ地区内に生まれ育ち、知人の紹介で結婚。その後はお二人で農業に従事しながら4人の娘さんを育てられました。当時は全て手作業で、とても大変だったとのこと。現在は、孫が10人、ひ孫が11人いらっしやいます。

人物像、夫婦像・・・。
 健次さんは川柳にグートポール、民謡と趣味も多彩。お二人とも仲間のみなさんと旅行に行くのが楽しみの一つと
 今までで一番思い出に残っているのは、高野山や出雲大社に二人で旅行に行ったこと。終始、穏やかに話しをされるお二人にズバリ、「夫婦喧嘩はしますか？」と質問すると、「けんかしない夫婦はいないんじゃないの？」とのご返事。でも、良子さんいわく、健次さんは、温かな性格で、良子さんが「うんとか、つうとか言ったらいいじゃない」というと「つう」・・・と答える感じで、逆に拍子抜けしてしまうそうです。こんな調子で、けんかはしても怒られた記憶はないと良子さんは言います。逆に、健次さんいわく良子さんは、気丈な人・・・とのことです。

方面が良かったそうです。
 夫婦喧嘩はしましたか？の問いに、「した覚えはないね・・・。」というか、忙しくて暇がなかったよ。」とお二人。三朗さんは、仕事が終ればまっすぐ帰宅する真面目な人だそう。トミさんいわく「普通」の旦那さんとか。トミさんも、きちんと家を守ってくれて、三朗さんいわく「普通」の奥さんだとか。そして、いろんな事にお互いあまり干渉しないのだそうです。
 結婚60年を迎え、それぞれへのメッセージ・・・。
 三朗さんからトミさんへ「大変お世話になりました。60年間もいっしょに生きてきたけど、これからもいっしょに長生きしましょう。」トミさんから三朗さんへは「長いことお世話になりましたが、これからもお世話になりますね。」とのことでした。
 戦争を振り返って・・・。
 冒頭で述べたように、三朗さんとトミさんは戦時中、東京大空襲に遭いました。その時の様子をトミさんは、「米軍の飛行機から、焼夷弾が雨

のように落ちて、私も背中に怪我を負いました。人々はみんな川を目指して逃げていました。みんなが助けを呼ぶ声は天に響くようでしたよ。倒れた私を助けてくれたのは、みんなが行く方向とは逆から歩いてきた主人でした。「自宅の寮のある付近が爆撃を受けたということで、たまたま心配になって様子を見に来た三朗さん、そこで倒れたトミさんを偶然にも見つけたのでした。」
 その戦争を今振り返って、「ひどい戦争だった。でも、軍国主義の時代、上の言うことに従わなければならなかった・・・。」と三朗さん。まさに死ぬような思いをしたトミさんも「二度とあってはいけません。戦争が終っても、夜、うなされながら爆撃される夢をよく見ました・・・。」と当時の様子を悲痛な表情で振り返っていました。

Diamond Wedding

2005 case 2